

『文豪たちの怪談ライブ』 (東雅夫/編著 2019年 筑摩書房)

明治末期から昭和初頭にかけて一大ブームであった「怪談」。歴史に名を遺す文豪や文化人が熱中した「百物語怪談会＝怪談ライブ」の歴史や、体験談について知ることが出来ます。背筋の凍るようなお話も…。当時の文化史の一端に触れることも出来る大変興味深い一冊。

『生物ミステリー 怪異古生物考』

(土屋健/著 荻野慎諧/監修 久正人/イラスト 2018年 技術評論社)

「怪異」は架空のものじゃない？ユニコーンやグリフォン、天狗、鬼…昔の人は「何」と出会ったことで、それらは現在まで「怪異」として伝わっているのか。科学的考察をもとにその正体に迫ります。

『妖怪馬鹿』

(京極夏彦、多田克己、村上健司/著 2001年 新潮社)

妖怪のことばかり考えている「妖怪馬鹿」達が集まり、楽しく語り尽くす対談集！そもそも妖怪とは？妖怪学とは？どんどん広がっていく話はマニアックながら、妖怪について知らない人も楽しめること間違いなしの「馬鹿話」です。

『妖怪たちのいるところ』

(水木しげる/絵 小松和彦/文 2018年 角川書店)
誰も見たことのある水木しげる先生の妖怪絵。それらの未発表絵が収められた一冊には、章ごとに解説と妖怪の紹介が丁寧に著されています。不気味なはずの妖怪達が何故か可愛く見えてくる、独特の絵を眺めているだけでも不思議な世界観を楽しめます。

『悪い本』

(宮部みゆき/著 吉田尚令/絵 東雅夫/編 2011年 岩崎書店)

「昔話のような定番の怖い話でなく、現代の怖い話で楽しませたい」がテーマになっている怪談絵本シリーズ第1弾。一見可愛いイラストが、より一層怖さを引き立たせます。さて「悪いこと」って何でしょう…大人が読んで、恐々と考えたい絵本です。

【怪異】かいいい 1、あやし
いこと。ふしぎなこと。「一な現象」
2、ばけもの。へんげ。「広辞苑第
七版」(岩波書店刊行)より

全館統一展示

第7回

書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へつなげていく企画
第7回の文字は前回の書名から「し」です。

『少女マンガのブサイク女子考』

(トミヤマユキコ/著 左右社 2020.10)

少女漫画のヒロインはどうしてみんな美少女なんだろう？誰も一度は考えたことがあるかもしれませんが。美少女じゃなければヒロインになってはいけないのだろうかと……しかし最近の少女漫画はいわゆる“ブサイク女子”がヒロインのものも増えてきています。時代的背景も考察しつつ、現代に取り残されない少女漫画論をあなたに。



Chiratto
Vol.36

2022年8月-2022年9月号

特集1

怪異【全館統一展示】

特集2

安野光雅の絵本作りの原点を探る

連載

書名でしりとり

お知らせ

西東京市図書館からのお知らせ
FM西東京で紹介した本

西東京市図書館主催講演会を実施しました！

安野光雅の絵本作りの原点を探る

—書誌学的な観点から、絵本成立に至るまでの着想のルーツを辿る—

講師：大貫伸樹氏（装丁家） 8月7日（日）@柳沢公民館視聴覚室



『ふしぎなえ』安野光雅さく
福音館書店 1981年

大変お待たせいたしました！

1月にコロナ禍のため延期となってしまった本講演、換気や消毒等の対策を行い、さらに定員数を減らしてではありましたが、無事開催することができました。

大貫氏所蔵の貴重な資料をご覧いただきながら、安野光雅がなぜ絵本をつくるようになったのか、絵本をつくることで目指したものはなんだったのか、参加者の皆さまがそれぞれ思索巡らすひとときになったのではないのでしょうか。



安野光雅の絵本は、西東京市図書館でも多数所蔵しています。はじめての方、ひさしぶりの方、あらためての方、この機会にぜひ手に取ってご覧ください。

※講演後に寄せられたご質問への回答は、後日図書館ホームページに掲載いたします。

『ABCの本ーへそまがりのアルファベットー』
安野光雅著 福音館書店 1978年

西東京市図書館からのお知らせ

【全館展示】こころのリフレッシュ

期間：令和4年8月16日～令和4年9月19日

（芝久保図書館・谷戸図書館は9月18日まで）

図書館では、西東京市健康課との共催事業「自殺予防対策キャンペーン」の一環として「こころのリフレッシュ」に関連した図書資料を展示します。ぜひご覧ください。

F M西東京で紹介した本

『二重に差別される女たちーないことにされている
ブラック・ウーマンのフェミニズムー』

（ミック・ケンダル／著 ディスクユニオン 2021.9）

「ブラック・フェミニズム」からの訴えの1冊です。著者が、「白人女性の優先順位によって定義されたフェミニズムは、有色人種の女性を安い賃金で雇い、家事をさせることで成り立っていた」と指摘するように、現実の問題は性別は何か、などという一元的なものではなく、ジェンダー・人種・社会経済階層等が複雑に「交差」して生まれています。アフリカ系女性が白人優位のフェミニズムを批判するという本書ですが、日本に置き換えても共通する事柄が多く見受けられ、彼女の批判は海を越えて私たちにも鋭く届きます。

『テレワークも業務改善もさっぱりわからない私に
新しい働き方を教えてください!』

（沢渡あまね／監修 朝日新聞出版 2022.4）

働き方改革や業務のデジタル化と言われてもなかなか動きの少なかった職場も、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で大きな変化が訪れています。多くの企業でリモートワークが導入され、入社しても対面での業務が減り、会議はオンラインでということが多くなるなど、わずか1～2年で働く環境も仕事の進め方も大きく変わりました。本書はこうした状況の中で改めて働く意義を考え、一人ひとりが仕事にどう取り組んでいったらよいかを教えてください。

発行：西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>